

## 箱根の不思議

古くから東西交通の要衝として栄えてきた箱根。地図を眺めて箱根を探してみれば富士山の南東、相模湾と駿河湾に挟まれたほんの小さな地域ですが、箱根という固有名詞は日常生活の中に多く取り込んでいます。箱根越え、箱根関所、箱根移動教室、箱根の山は天下の駿、箱根八里の~、天気予報で箱根の山を隔てて異なる天候、異なる生物、箱根という場所の影響を受けることがあります。多くの言葉、現象も箱根連山が関所の役割を果たしていることを示す例が多いようです。人の往来のみならず、大気の往来も妨げる。上信越国境の山並みほど顕著に現われませんが、西から東進してきた低気圧が箱根連山を越せず、静岡県側で勢力を弱めてしまう。天空の気団がこうであることから、人々の往来は更に難所であったことが想像できます。文化面でも東西を分けるものが多く見られ、お互いの文化が重なった工芸品などを見かけらることができます。



下る道。平安時代初期の802年(延暦21)、富士山の大噴火によって火山灰、碎石が飛散し足柄道が埋没したために開道。元箱根を経て芦之湯温泉に至り、中央火口丘の湯坂山等の斜の溝が見られます。現在も、残るのは1863年(文久3)に14代将軍徳川家茂が上洛するため改修されたもの。箱根町に2885mの石畳が残っており、国の史跡に指定されています。

**湯坂道**(鎌倉・室町) 鎌倉將軍が箱根權現と伊豆山權現の二所詣が行なわれるようになると、足柄道より短縮されることから箱根越えの道が東海道の主流となる。鎌朝3回、実朝は8回も二所詣を行なっている。湯本から湯坂山、浅間山、鷹巣山の尾根伝いに芦之湯温泉に出て、精進池から箱根權現へ向かう。更に箱根峠から海の平、元中山を経て三島に下る道を鎌倉古道と呼んでいる。

**東海道**(江戸) 三島より箱根を経て、宿場から湯本・小田原に至る。1618年(元和4年)に幕府が整備。参勤交代の行列が往復した。三島・小田原間に八里で、箱根八里の元になった。

**碓井道** 箱根官道の最古のもの。御殿場から乙女峠を越え、仙石原、宮城野を経て、明神岳から今の大雄山最乗寺に至る。

**足柄道** (奈良・平安) 碓井道は外輪山を二度も越えなくてならないため、これに代わる道ができた。御殿場から竹ノ下を通り、足柄峠を越えて関本に



るみが多く膝まで泥に浸かることもあった。ハコネダケを束ねて敷いたものの、毎年代えなくてはならぬ費用もかさむことから村人たちは幕府から資金を借り、1680年(延宝8)に街道に石を敷きつめて石畳にしました。

現在も所々に残る石畳の旧街道は、平均3.6m(二間)の道幅に、中央に1.8m(一間)幅に石畳が敷かれています。石のサイズは異なり、所々に水はけ用の斜の溝が見られます。現在も、残るのは1863年(文久3)に14代将軍徳川家茂が上洛するため改修されたもの。箱根町に2885mの石畳が残っており、国の史跡に指定されています。

**箱根細工** 箱根土産の定番といえば箱根細工。実用的なものから工芸品なものまで制作され、昭和59年5月に国の伝統的工芸品に指定され、海外にも輸出される程になっています。起源は古く、平安時代初期に始まったといわれる。江戸時代には力こかきの副業として盛んになり、湯治場や街道の茶屋で売られるようになりました。箱根細工には、「挽物」と「指物」があります。挽物は、口クロを使用して作られる物で、盆・楓・丸膳などがあり、明治以降は多くの玩具類が制作されています。指物は主に箱類で、その表面を寄木細工や象嵌細工で装飾します。



相撲取りだけで、芸人は芸を披露すれば通行が許された。朝六時~夕六時以降の閉門後はどんなことがあっても通行が禁止され、関所破りは死罪と決められていた。1869年(明治2)に廃止、関所跡が1922年(大正11)国的重要文化財に指定されています。

**箱根の里塚** 江戸幕府は街道を往来する旅人の目印として、街道の一里(約4km)ごとに一里塚と呼ばれる土を盛り上げた塚を作りました。箱根路では、湯本茶屋が江戸日本橋から数えて22番目の塚にあたり、宿、藤原久保の三ヶ所に一里塚が置かれています。現在、箱根路で残るのは、旧街道石畳の西側に残る宿場の一里塚のみで、1998年(平成10)には保存整備され、木々の成長によって往時の姿をとどめつつあります。発掘調査から、一里塚造営の工法が推測できています。まず周囲の土を削りとて、削った土を平面に盛りたて、石を置いて平面の台を造り上げた。その上に直径が約9m(約30尺)の円形になるように石や礫を積み上げていく。表面には土を盛り、円錐のてっぺんに樹木を植えたようだ。保存復元されて一里塚は、以外に大きく、宿場から見て右側の塚には樅の木を、反対側には櫻の木を植えている。直径約9m、高さ約4.5mの上に植えられた樹木は目立ち、植林されて数百年たった一里塚は、遠くからもかなり目立つものであったことが想像される。

**湯立ての獅子舞** 仙石原(3月27日)、宮城野(7月15日)の諏訪神社で行なわれる獅子舞で、無病息災を祈願する行事です。全国でも珍しい中世の神事芸能で、国選別無形民俗文化財に指定されています。境内に大釜を立て、煮えたぎる湯の回りを獅子面を付けて舞踊る。クマザサの束で湯をかき回し、神通力でさました湯をササの葉の零となって参拝者にふりかける。金時神社の金時祭(5月5日)でも行なわれる。

**箱根関所** 二代将軍秀忠の時代、1619年(元和5)に大名の謀反防策のために開設。前年より大名の参勤交代制度が敷かれ、「入鉄砲に出女」は特に取り調べがきつかった。江戸に持込まれる鉄砲、江戸から逃亡しようとする諸大名の妻子を取締るものとして、静岡の新居関と共に、厳しいことで知られた。通行手形は、武士は藩の上役、百姓や町人は名主が発行。女性は、人相書き手形で手形を必要としないのは、大名と芸人、

**象嵌細工** 一枚の板に種々の天然木材をはめ込んで、絵画のような表現をしたもので木画とも言っています。寄木と同じ方法で「ヅク」を貼りつけます。箱根では明治中期に糸鋸機械にミシン鋸を装着し、台板に描

いた模様にそって引き抜き、同型に引き抜いた模様材をはめ込んで絵画や絵柄を表しました。山水や花、動物など曲線模様が特長とされます。

## 箱根登山鉄道

6月~7月にかけてアジサイ電車は、お花畑を走る登山鉄道のようだ。箱根登山鉄道の起点は小田原駅。終点の強羅駅まで約15の道程を約50分かけて走る日本スピードの遅い電車です。新宿駅から乗り入れている小田急線のため、湯本~小田原間は線路の幅が異なることから3本のレールを使って走行しています。鉄道マニアにとっては、スイッチバックが終点迄の駅に3回も行なわれ、急勾配のためレールや車輪の摩耗を防ぐために水をまきながら走るのを見るだけでもワクワクしてきます。非常制御装置もエアブレーキ、電気ブレーキなど4つの制御装置があり安全対策も万全です。スイッチバックでは、今登ってきた線路の方向へ戻るような形になるため、北山信号場、大平台駅、上大平台信号場の駅で行なわれる場所では運転手と車掌がホームを歩いて入れ替わります。アジサイ期間中には、ライトアップされ、夜間のみ全席指定の列車も走っており幻想的な車窓を見せてくれるでしょう。

**箱根の花**  
ソメイヨシノの開花状況(4月)  
小田原(標高50m)…1日満開 7日  
湯本(標高110m)…2日満開 8日  
塔ノ沢(標高135m)…1日満開 8日  
大平台(標高350m)…5日満開 9日  
宮ノ下(標高400m)…7日満開 11日  
箱宿(標高430m)…11日満開 20日  
強羅(標高540m)…9日満開 14日  
仙石原(標高665m)…13日満開 23日

**金太郎岩・舟見岩** 芦ノ湖を作った箱根火山の最後の神山の噴火で大崩壊を起こし、巨石が湖尻方面へ向かって動きだした。ローブウェイの姥子駅近くにある金太郎岩や舟見岩は土石流の名残である。大石という名前停では20m以上もある巨石が県道を分断しているのが見られる。

**箱根用水・深良水門** 芦ノ湖の水は深良水門から箱根用水を経て駿河湾に注いでいます。黄瀬川の水量が少ないため、静岡県深良村(現裾野市)の新田開発のために掘られたもので、湖尻側の下に水道トンネルを敷いたもので、長さは1342m、高低差は9.8mあります。完成は江戸初期、1670年(寛文10)に4年の歳月をかけて開発されました。深良村の名主、大庭玄之丞が、江戸商人から資金提供を受け、芦ノ湖の水利権を持つ箱根權現に続いて幕府にも工事許可を得て工事が開始されました。人夫は83万人、火薬を使わず完成させています。この用水の完成によって、芦ノ湖の水利権は静岡県に

**紅葉の見ごろ**  
10月下旬 神山・冠ヶ岳・金時山  
11月上旬 仙石原・元箱根・芦ノ湖・駒ヶ岳・二子山・小堀山  
11月中旬 強羅・小涌谷・宮ノ下  
11月下旬 湯本・塔ノ沢・大平台

あり、現在も芦ノ湖のある神奈川県は水を利用出来ない状況となっています。

**杉並木** 元箱根から芦ノ湖畔に沿って箱根関所方面へしばらく行くと左手に杉並木が現われる。幹の周囲が2~4.5mの大木が今でも約420本が残っています。国の史跡に指定されており、杉並木は、関所役人の手植によれば、1618年(元和4)に箱根宿を設けたときに植えられたと伝えられています。車の通行が禁止されているため、一歩足を踏み入れると江戸時代にタイムスリップしたよう。

**箱根十七湯** 箱根山一帯に存在する温泉群。底倉と湯本の温泉が室町時代から知られています。塔ノ沢・宮ノ下・堂ヶ島・木賀・芦之湯を入って「箱根七湯」と呼ばれており江戸時代以後に開発されたものです。最近では、明治以降に開発された大平台・小涌谷・強羅・宮城野・二ノ平・仙石原・姥子・湯ノ花沢・駒ヶ岳・青ノ湖を加えて「箱根十七湯」と呼んでいます。

**ニホンミジタダミ** 2000年春、環境庁より陸・淡水産目類のレッドリストが公表され、ニホンミジタダミは、絶滅危惧類(15種)に指定されました。明治初期、ドイツ人のヒルゲンドルフが芦ノ湖で採集した標本を元に、ベルリン博物館長であったマンテルスによって命名された巻き貝類である。

**ハコネサンショウウオ** 昭和44年(1969)、箱根町の天然記念物に指定。

箱宿の近くを流れる須雲川には、ハコネサンショウウオが棲息することで知られる。国内では日本産サンショウウオの中で最も分布域が広く、本州東北地方から四国に棲息する。標高数10mの海岸部の丘陵地から2000mを越える高山にまで棲息。サンショウウオは幼児には外エラで呼吸し成体になると多くが肺呼吸になります。ハコネサンショウウオはスウェーデンの植物学者、チュンベリーが1776年箱根山で採集した標本に基づいています。

**箱根ブナ森の危機** 神山から仙石原小塚山一帯は、ブナ、ヒメシャラ、ヤマボウシなどの自然林に覆われています。ブナ林は、この地域では標高700m以上に分布しますが、箱



根のブナ林は下限域の特異なものとして貴重なものであります。また、暖かい地域の常緑樹林と冷温性地域の落葉樹林(ブナ・ヤマボウシ)の移行帶にあたり、この植生が広く残された貴重な地域でもあります。広葉樹の木々の葉が大地を覆う夏期は、箱根の森を象徴する景観です。大きな広がりをもつブナ林には、動植物が共存する循環の和の世界を作りだしています。他の箱根地区的ブナ林は開発によって壊滅状態にあり、この神山・仙石原地区の植生は貴重なものとなっています。国立公園特別地域にも、「風致に与える影響は少ない」として許可されるものでてきています。この森も開発の手が徐々に入り込んでおり、ムカシントなどの棲息地が危ぶまれています。

**名前/ひらがな**  
血液型

**学校名**  
■ この地図のつかい方: 地図は未来を示すらしい聲のよるもので、これから訪れる未知の場所への基礎知識を示してくれます。熟練すれば地形はもとより、交通や気候、産業や自然といった様々な要素を読み取ることができます。地図についてのみ見るとはいわば、「地図を読む」というのも、このようなわけです。

未知の土地を訪れる前に、その土地について知ろうすることは、その土地に敬意を表すことに他ならず、土地特有の自然歴史、言葉といった様々な習慣を尊重することもあります。さらに目的地への理解が深まれば自ずと謙虚な訪問となり、結果的に安全な旅をする事につながります。この道理は、日帰りの見学でも宇宙旅行でも同じ事です。旅は知性の鏡と言われる通り、知的な環境を整えて出かける旅は、より深い知性を育むものです。この地図では手技を駆使した鳥瞰図と平面図を備えることで、より立体的な土地のイメージが組み立てられるよう設計されています。この地図をつかって、より多くの発見に出会える事を願っています。

**箱根鳥瞰図**  
2009年10月15日 第1刷発行  
編集発行 杜団法人 日本移動教室協会 Educational Travel Service  
〒101-0052 千代田区神田小川町2-6 TEL 03-3294-1200 FAX 03-3233-1213  
内容は改良のため予告なく変更されることがあります。